

女性が見えると時代が見えるシリーズ 2

『年齢別に見た女性の意識と行動調査'87』にみる

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
現代・新人類女性気質
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

－消費の演技者たち（昭和39-43年生れ）－

1988年 9月

ポ ー ラ 文 化 研 究 所

担当： 村澤

女性が見えると時代が見えるシリーズ 2

『年齢別に見た女性の意識と行動調査'87』にみる

現代・新人類女性気質

はじめに

ポラ文化研究所では、1987年に年齢別に10カテゴリー95項目に及ぶ女性の意識・行動についての総合調査を実施致しました。

その結果、年齢別にそれぞれその世代特有の傾向が見られました。そこで、『年齢別に見た女性の意識と行動調査'87』のデータを分析し、その世代の特徴をシリーズ「女性が見えると時代が見える」としてレポートしています。今回は「団塊の妻たち」と題して、団塊の世代37～40歳の女性にスポットをあてました。今回は「東京オリンピック以後に生まれた若い世代」をレポートします。

なお、本調査は各年齢別の経年的な変化をつかむため、今後3年毎に実施する予定です。新人類の世代の意識・行動も継続的に追跡し、それがその年代特有の意識・行動か、その世代特有のものをみていきたいと思ひます。

1. 目的

①いま話題になっている「新人類世代」が、男性新入社員を中心に語られているのに対し、ここでは「新人類の世代の女性の意識」として分析した。

②同じ世代でも「学生」と、働いている場合（ここでは「一般」と呼ぶ）で意識・行動に違いがあるか検証した。

③他の年齢層の女性と「新人類世代の女性」の意識・行動を比較した。

2. 調査地域

首都圏30キロ圏内

3. 調査方法

個別訪問面接聴取法、及び留置法の併用

4. 調査期間

昭和62年8月29日～9月15日

5. 調査対象者(昭和62年8～9月時点)

16～18歳……………100人

19～23歳……………150人

(学生……………81人)

(一般……………69人)

24～29歳……………150人

(未婚……………71人)

(既婚……………79人)

30～36歳・既婚…100人

37～40歳・既婚…100人

41～49歳・既婚…100人

50～65歳・既婚…100人

合計800人

<「新人類女性」の属性>

表 1 - 職業

学 生	54%
一 般	46%

表 1 - ①学生の内訳

大 学 生	44%
短 大 生	40%
専門学校生	12%
そ の 他	4%

表 1 - ②一般の内訳

正社員・常雇	83%
パート・アルバイト	7%
無職	4%
家族従業員	3%
専業主婦	1%
その他	2%

表 2 - 購読雑誌ベスト 5

n o n ・ n o	37%
a n ・ a n	33%
C a n C a n	29%
J J	24%
V i V i	19%

(マルチ回答)

東京オリンピック以後に生まれた 「新人類世代」

今、40歳前後を「団塊の世代」、30歳前後を「ポスト団塊の世代」と呼んでいる。そして団塊世代を親に持つ中・高生が団塊ジュニアといわれている。では、その間には生まれた20歳前後は、何といわれているのだろうか。

昭和61年に入って、彼らのことを「新人類」とよぶ呼び方がマスコミ・ジャーナリズムで日常的になった。これまでの既成の価値観、生活感覚では律することのできない不可解な何かを感じさせる世代があらわれ始めたのである。ここで、なぜ昭和61年にこの世代が、急に今までの若者とは一線を引く「新人類」という分け方をされたのか。その年、新しくフレッシュマンとして入社した若者が、実は昭和39年生まれ、即ち東京オリンピックが行なわれる年に産声を上げた世代なのだ。東京オリンピック以降、日本社会は大きな転換期を迎えた。生まれた時からカラーテレビに囲まれ、マンガやファースト・フードと共に成長してきた世代である。彼らがものごころついた頃にはすでに大量の「もの」が世に溢れ、さらにそのものが「機能」から「好み」の時代へと移る時に青少年時代を過ごしている。

そのような成長過程を経て現在、彼等がどのような意識を持ち、行動をとりたいと思っているか、データを上げながら考察したい。

<新人類女性—キーワード>

1. 消費で自分パフォーマンス—個性は消費の差別化で

2. ドラマ風人生観—「非日常」へのあこがれ

3. 経済優先・結婚観—良妻賢母タイプの崩壊

4. 自分本位・社会観—ヤル気派とワリキリ派

1. 消費で自分パフォーマンス—個性は消費の差別化で—

旺盛な購買意欲とマメな購買行動によって、自分の「個性」を他の人と差別化し、表現している。買いたいものはその時の気分で我慢せずに買い、「もの」への強いこだわりを感じさせる。さらに、ものを持てる豊かさで「実は他人より上である」という意識が強く、我慢したり、もったいないという伝統的な美德では自分をパフォーマンスできなくなっている。

★消費意識・行動は？(右図1参照)

全年齢層(16~65歳)中「はい」という回答が最も高い質問項目を以下に上げてみた。

- ① “高額であっても自分のほしいものはできるだけやりくりして買う”
(一般64%・学生61%/全年齢41%)
- ② “その時々の気分で買うことが多い方”(一般67%・学生59%/全年齢46%)
- ③ “色々な店を比べて買う”(学生88%・一般78%/全年齢70%)
- ④ “色々なものを買って豊かな生活を楽しまたい”(学生78%・一般70%/全年齢63%)
- ⑤ “これからの流行やよく売れそうな新製品に敏感”(学生43%・一般42%/全年齢30%)

逆に全年齢層中「はい」という回答が最も低い質問項目を以下に上げてみた。

- ① “なるべく安い品で間に合わせる”(学生43%・一般52%/全年齢54%)
- ② “どんな時でも将来に備えて貯蓄した方がよい”(学生70%・一般81%/全年齢86%)
- ③ “高額の買物であれば欲しいものでも買うのをあきらめる”
(学生35%・一般35%/全年齢47%)
- ④ “なるべく多くの人が使っているメーカーを選ぶ”(一般44%・学生52%/全年齢61%)
- ⑤ “新しい商品やかわったものを試しに買うことはあまりない”
(学生48%・一般48%/全年齢58%)

以上のデータを見ると、ものを買う時にためらう要素になる価格やメーカーはこの年代では障害にならないようだ。

★生活レベルは？

「学生」は、自分の生活レベルを最も高いと思っている人が多いし「中の上以上」だと思っている人も最も多い(学生35%・一般30%/全年齢25%)。

「一般」は、自分を“ぜいたくな方”と見ている人が最も多い。(学生30%・一般38%/全年齢28%)

こづかいは、1万円以上の方が80%以上いる(全年齢では50%)。自由に使える額はやはり多い。年齢別に月平均額をだしてみても29,773円と最も高い。(全年齢平均は16,620円)

図2 一ヶ月平均小遣い

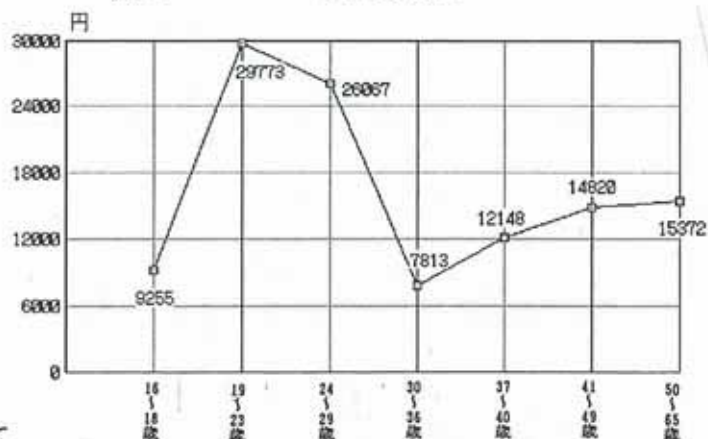


図1 <消費意識・行動>



★家計

増やしたい費目は、

- ①貯金(学生44%・一般55%/全年齢55%) ②趣味・教養(学生42%・一般33%/全年齢41%)
③交際費(学生17%・一般23%/全年齢8%)の順。

他年齢層と比較すると、貯金のスコアが低く、交際費、衣料費が多くなっている。この年代はまだ未婚者がほとんどなので、あくまでも希望であるが、意識は消費志向といえるだろう。

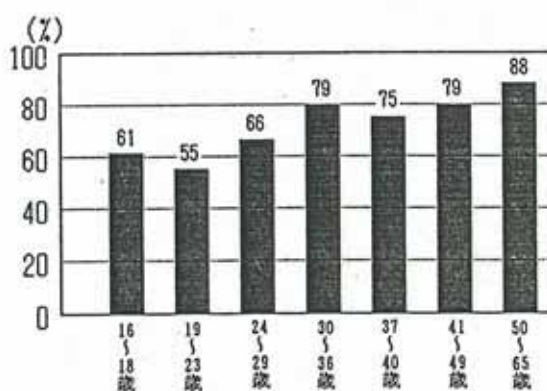
★おしゃれ

おしゃれに“かなり関心がある”女性が最も多く(学生33%・一般32%/全年齢16%)、現状よりもっとおしゃれをしたいと思っている。特に学生がおしゃれに積極的である。ここでも「おしゃれ」をするということが、化粧品や服などを買ったりして実現させていくと考えれば、消費志向が高いと言えるだろう。

★「もったいない」という言葉の使用頻度

全年齢層中“もったいない”という言葉を使うことが55%と一番少なく(学生51%・一般60%/全年齢75%)、「学生」が“ふだんもったいないことをしている”と感じることも一番少ない(学生16%・一般24%/全年齢27%)。生活の中で、ものを買うことが大きな役割を担っている彼女たちにとって、「もったいない」という言葉は不用なのだろう。また、新製品に敏感な彼女たちには、次から次へと出るものに“もったいないといっているひまなどない”という見方もできるだろう。

図3 「もったいない」感覚



★子供「男の子」・「女の子」の大切なしつけのポイント

他年齢層と比べて、「学生」は“ものを大切に使う”という項目(マルチ回答)で、「男の子」・「女の子」ともにしつけのポイントとしてみていない(学生「男の子」54%/全年齢67%、「女の子」64%/72%)。彼女たちが子供を育てる時に“ものを大切に使う”ことは、厳しくしつけなければならないことではないのだろう。ただし、この年齢では結婚もしていない人がほとんどなので、「子供のしつけ」といっても実感がなく、自分はどうだったかで答えているのだろう。

2. ドラマ風人生観 — 「非日常」へのあこがれ —

平凡とかマジメとかより、いろいろ面白いことや変化を求めた生き方を望んでいる。意識は堅実な生き方というより、生活感(家事や家族との付き合いなど)のあることをドンドン排除していく傾向。また、人生に他人とは違うドラマを期待している。雑誌ノンノの山崎洋副編集長もこの世代を「ドラマチックな生き方にあこがれている。物質的に恵まれていても精神的な空虚さを感じているように思う。」(日経産業新聞6/25)と評している。もちろん、20代前後という年代自体が“ドラマ”に魅力を感じる時といえるが、もっと“自分だけの生き方”を意識し始めているようだ。

★生き方(次ページ図4参照)

全年齢層中「はい」という回答が最も高い質問項目を以下に上げてみた。

- ① “活動的で変化に富んだ生き方がしたい”(学生86%・一般74%/全年齢60%)
 - ② “家族も大切だが、会社・友人など他人とのつきあいに時間をさきたい”(学生93%・一般83%/全年齢72%)
 - ③ “子育てと家事とで一生を終えたくない”(学生53%・一般46%/全年齢41%)
 - ④ “今の生活とは違った別の生き方がしたい”(学生・一般共62%/全年齢43%)多い方
 - ⑤ “色々な人と知り合いになり色々話したい”(学生93%・一般88%/全年齢83%)
- 逆に全年齢中「はい」という回答が最も低い質問項目を以下に上げてみた。
- ① “他人とのつきあいはほどほどにして家族と一緒に過ごす時間を長くとりたい”(学生20%・一般26%/全年齢51%)
 - ② “人生まじめに生きていけば間違いない”(学生57%・一般55%/全年齢80%)少ない方
 - ③ “毎日毎日楽しく健康で平凡な暮らしがしたい”(学生75%・一般86%/全年齢93%)
 - ④ “家族そろって外出する機会が多い”(学生21%・一般15%/全年齢33%)
 - ⑤ “子供が小さい時には母親は子育てに専念すべきである”(学生52%・一般51%/全年齢64%)

この世代を境にして若い女性ほど「他人とのつきあいはほどほどにして家族と一緒に過ごす時間を長くとりたい」、「人生まじめに生きていけば間違いない」とは思っていない。ほとんどがまだ未婚なため両親と同居していると考えられるが、親とは違う“今とは別の自分の生き方”、“平凡でない変化に富んだ個性的人生”に強くあこがれている。特に従来の「子育てと家事に追われる女性の生き方」に対して“それだけではない生き方”を肯定している女性がこの世代に最も多い。

★ふだん読んでいる雑誌

- ① タウン情報誌(学生36%・一般29%/全年齢10%)
 - ② 女性週刊誌(学生・一般共32%/全年齢28%)
 - ③ 少女コミック誌(学生21%・一般22%/全年齢7%)の順に多い。
- “タウン情報誌”は、3人に1人が愛読。“少女コミック誌”と“レディスコミック誌”(学生14%・一般15%/全年齢4%)を合わせると3人に1人が愛読。“タウン情報誌”を読む時は何か変化を求めて、“コミック誌”を見る時はドラマを求めているのだろう。

図4-＜生き方の意識＞



★趣味

“少しは他人と違った趣味をもちたい”(学生89%・一般77%/全年齢65%)と思っている人がこの世代に最も多い。

★好きなお酒

「学生」は“カクテル”(17%)、“ビール”(16%)、“ワイン”(15%)の順で、「一般」は“ビール”(22%)、“ウイスキー”(19%)、“カクテル”(13%)の順で好きだと答えている。好みがバラついているが、ここでも他人と違うという意識を持っているようだ。お酒を飲む場所も自宅以外広く外にひろがっているようだ。それに比べて、24歳以上の女性は、圧倒的に自宅で“ビール”派(32%)。

★余暇の過ごし方(マルチ回答)

*現在の余暇の過ごし方として、「学生」に“映画の鑑賞にでかけたり”(学生51%・一般42%/全年齢17%)、“音楽・絵画などの鑑賞にでかける”(学生36%・一般22%/全年齢16%)人が最も多い。

*将来の余暇の過ごし方として、「学生」に“スポーツをしたり”(学生65%・一般59%/全年齢41%)、“映画の鑑賞にでかけたり”(学生54%・一般38%/全年齢30%)、“音楽・絵画などの鑑賞にでかける”(学生51%・一般29%/全年齢37%)人が最も多い。

ここでも余暇の過ごし方が他年齢層よりバラついている。時間の過ごし方もそのひとなりにいろいろな過ごし方をしているようだ。

★旅行は?

この一年間に旅行をした人は83%(全年齢78%)と他の年齢層と比べて一番多い。しかし、海外旅行経験者は、まだ29%、それだけに夢見るのかも。“海外外国の情報に対する関心が強い”(学生53%・一般44%/全年齢28%)という項目でもスコアが高い。日常生活と別の時間を求めているのだろう。

★友人知人らと雑談する時の話題は?

①“友人・知人”(学生77%・一般81%/全年齢46%)

②“ファッション・化粧”(学生79%・一般71%/全年齢42%)

③“夫・恋人”(学生62%・一般65%/全年齢25%)の順。他年齢層と比べても最も多い。

“映画・演劇”(学生59%・一般62%/全年齢23%)、“音楽”(学生59%・一般58%/全年齢20%)、“雑誌・本”(学生48%・一般51%/全年齢23%)、“スポーツ”(学生56%・一般39%/全年齢23%)を話題にする人がこの世代を境に若い女性に多く、“物価”(学生1%・一般3%/全年齢24%)や“近隣のうわさ話”(学生1%・一般3%/全年齢15%)を話題にする人が少ない。未婚者がほとんどなので当然だろう。

★新聞

“毎日必ず読む”人が他年齢層に比べて一番少ない(学生35%・一般19%/全年齢53%)。リアルな現実を読むよりもテレビでドラマをみる傾向。

★テレビ

- ①洋画(学生64%・一般54%/全年齢46%) ②報道(学生63%・一般48%/全年齢72%)
③ホームドラマ(学生44%・一般49%/全年齢50%)の順。

全年齢中では、“洋画”“現代風俗ドラマ”(学生25%・一般17%/全年齢15%)や“メロドラマ”(学生20%・一般13%/全年齢12%)のスコアが高い。

ほのぼのとしたホームドラマもいいが、ドラマチックドラマへのあこがれがある。

3. 経済優先・結婚観 - 良妻賢母タイプの崩壊 -

彼女らにとって、結婚することによって、自分の生活が現在より快適でなくなるようでは困るようだ。それには、まず「経済的安定」が結婚の大きな要因になっている。そうでない結婚は別に無理をしてしなくてもいいと考えているのかもしれない。最近、専業主婦を望む女性が一時よりも増え、若い人が保守化しているのではないかという意見もあるが、それも従来の“家にいて家事をする”専業主婦を望むのではなく、“働かないで、外にでて自由に時間とお金を使える”専業主婦を望むようになってきたからともいえるだろう。画一的ではない多様な結婚観がうかがえる。

★結婚理由

*マルチでは、「学生」だけが「経済的に安定するから」が53%と半数以上が支持(一般39%/全年齢39%)

★結婚観

「結婚後もできるだけ女性は経済的に自立すべきである」という質問に対しては、全年齢中そう思う人が多い方。ただし、学生67%、一般52%と差がある(全年齢54%)。

「人間は結婚してはじめて一人前になる」という質問に「いいえ」と答える人が半数を超えるのはこの世代を境にして若い女性。(学生は59%と高いスコア・一般49%/全年齢41%)

図5 <結婚観>

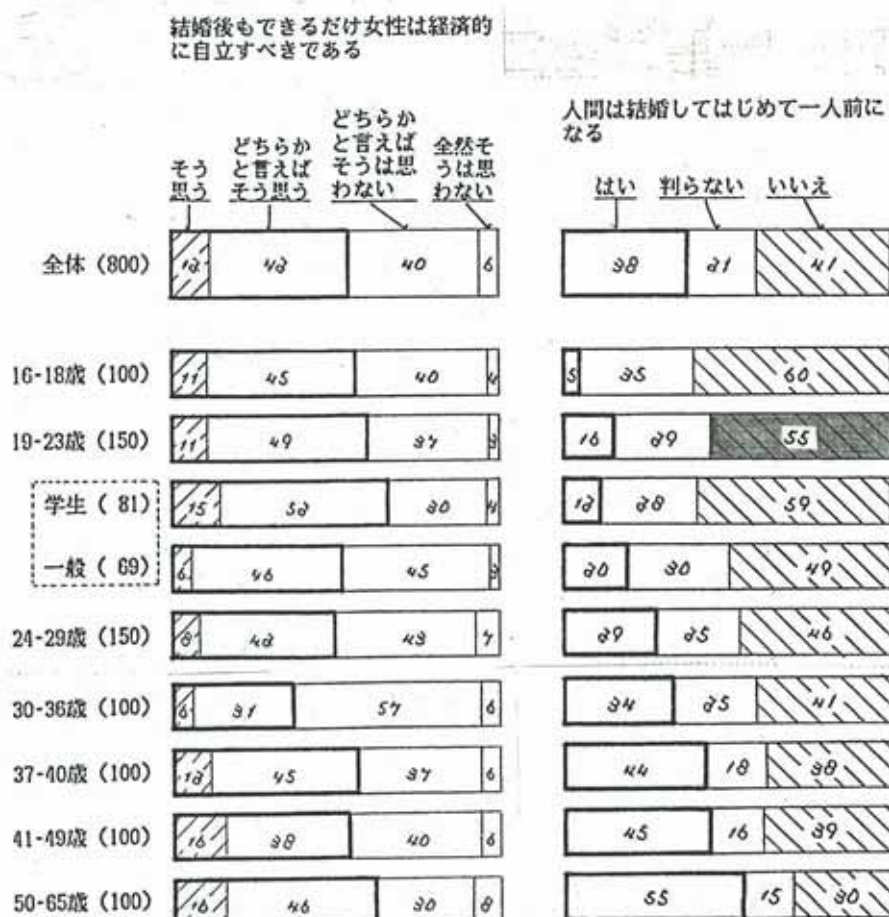
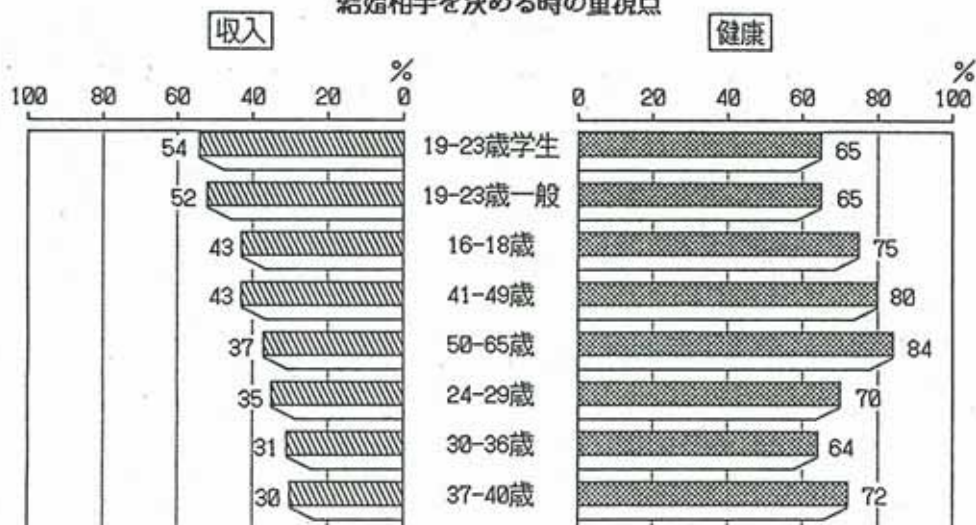


図 6

結婚相手を決める時の重視点

*結婚相手を決める時は、性格、健康、将来性、収入(マルチ回答)の順だが、他年齢層と比較すると、健康を支持する人が少なく(学生・一般65%/全年齢41%)、逆に収入を支持する人は一番多い(学生54%・一般52%/全年齢41%)。



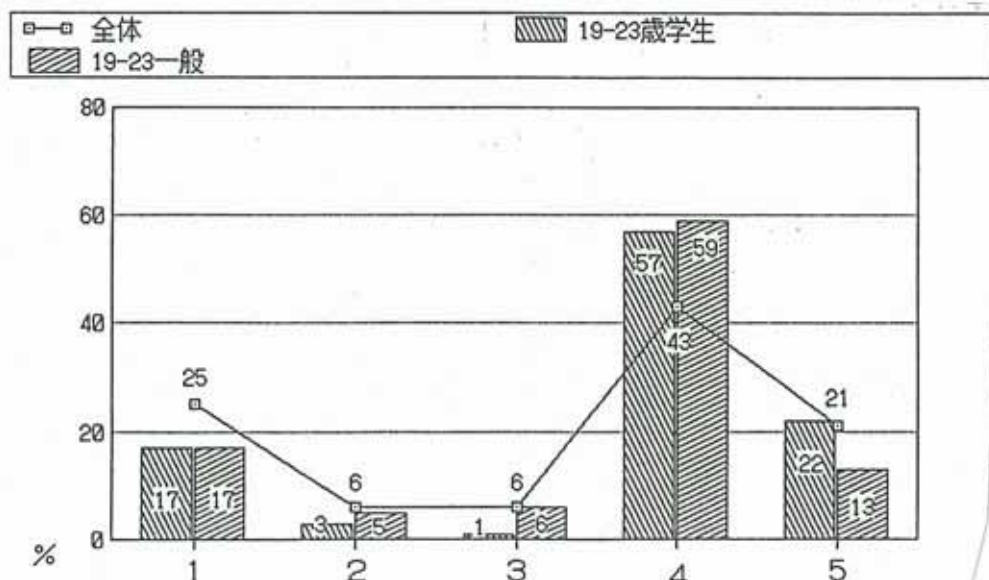
★好ましい夫婦像

“夫をもりたてるよう気を配り、夫が一家の主人として威厳を保てるようにする”のを好ましい夫婦と思っている人は少なく(学生・一般共17%/全年齢25%)、“家事分担”派が圧倒的に多い(学生57%・一般59%/全年齢43%)。家事・育児が女だけの仕事とはとらえていないようだ。

図7 - <好ましい夫婦像>

- Ⅰ. 妻は夫をもりたてるように気を配り、夫が一家の主人として威厳を保てるようにする
- Ⅱ. 妻はなるべく夫の言うことに従うようにし自分の趣味や仕事も夫の意見に従ってする
- Ⅲ. 妻は家庭を守り、夫の仕事には口をはさまないようにし、夫も家庭のことには口をはさまないようにする

- Ⅳ. 妻と夫は、家事や育児を分担しあって、互に相手の仕事や活動を助けるようにする
- Ⅴ. 妻はいつも夫に従うのではなく、自分の趣味や仕事に打ち込み、自分の生き方を大切にする



4. 自分本位・社会観—ヤル気派(学生)とワリキリ派(一般)—

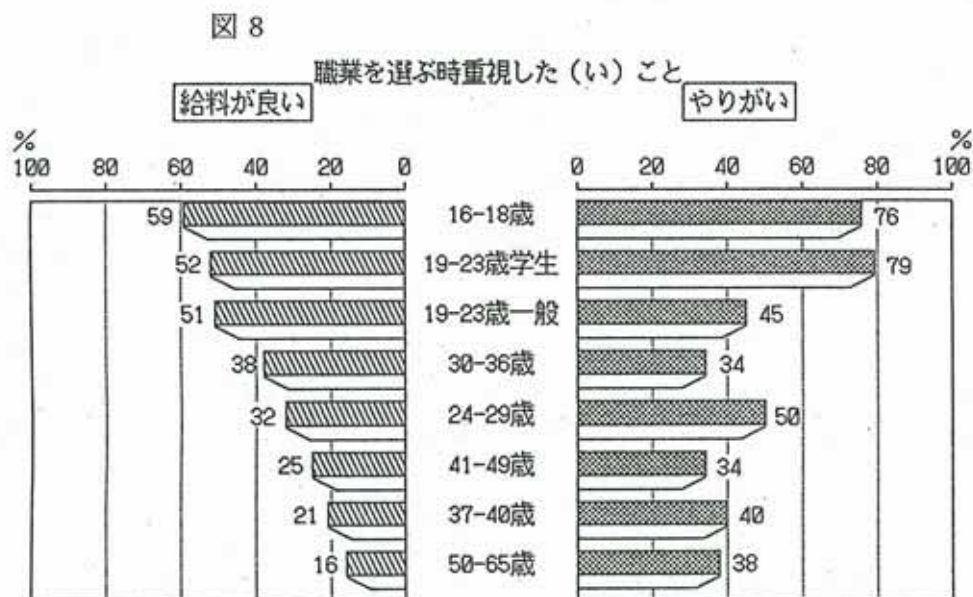
対社会の項目は「学生」と「一般」とで意識が異なるものが多い。既に社会に出ている「一般」は、仕事はとりあえず目的ではなくお金を得る手段であり、「学生」は、「自分」が好きな仕事・面白いと思える仕事をやるのが第一と考えている。また、「学生」はそれなりに仕事に“やりがい”を求めているが、組織のためなどという考えはなく、自分自身を十分に表現していきたいと思っている。

★職業

* “職場で男女平等だと思う”人は、「学生」では10%だが、「一般」では27%と他の年齢層と比べても多い(全年齢13%)。

「一般」は“自分自身のやりたいことや買いたいものがあるため”(一般84%・学生68%)に、「学生」は“能力を生かすためや仕事がおもしろいから”(学生63%・一般36%)が<就業理由>。

* 職業を選ぶ時重視した(い)ことという質問では、「学生」が“やりがいのある仕事ができること”を全年齢中最も多く選んでいる(学生79%・一般45%/全年齢45%)。また、この世代を境に若い人が職業を選ぶ時“給料が良いこと”が半数を超える大事な要素となる(学生52%・一般51%/全年齢33%)。



* “仕事のために休暇を犠牲にする必要はない”と考える「一般」が他年齢層と比べて最も多い(一般81%・学生69%/全年齢63%)。それに対して、「学生」は“むずかしい仕事にも積極的に取り組みたい”(学生81%・一般52%/全年齢59%)し、“仕事をする以上は昇進したい”(学生64%・一般50%/全年齢49%)し、“管理職や責任の重い仕事に魅力を感じる”(学生46%・一般26%/全年齢36%)と思っている人が他年齢層より多い。

「学生」はまだ実際に職業についていないことから、“仕事”に対して夢をもっている面がうかがえるが、「一般」は職業に関していえば非常にプライベートな時間と仕事を割り切っている。(図9参照)

図9 <仕事観>



★女性の自立は？

全年齢層中“女性も経済的に自立すべきである”と考えている人は平均レベルだが(学生21%・一般19%/全年齢22%)、“自分は経済的に自立できる”と思っている人が多い(学生47%・一般42%/全年齢33%)。他の人はどうかわからないけれど、「自分」はとりあえず自立志向である。